季刊 9月 SEPTEMBER 号外

富山県いみず市を世界に発信する会 Toyama Imizu

■一般社団法人
富山県いみず市を世界に発信する会 事務局
〒939-0274 富山県射水市小島 3670
TEL/FAX：076-434-9997

「置き薬」をアフリカの人たちへ

利他のこころを町井恵理さんと語り合う

「伝統の『置き薬』のこころを世界へ」をテーマに、認定NPO法人「アフリメディコ」代表理事の町井恵理さんの講演とパネルディスカッションが八月二十七日、富山県民会館で開かれた。富山県発祥の「置き薬」の仕組みをアフリカのタンザニア連合共和国で普及させている町井さんの活動には、会場から盛んな声援が送られた。

冒頭のあいさつに立った柴田巧・参院議員（右）と、塩井保彦・広貫堂代表取締役会長（左）

町井恵理さんと医師、地元有識者とのパネルディスカッション

講演した町井恵理さん。「世界で闘う日本の女性 55」（Forbes JAPAN）にも選ばれている（県民会館で）

主催 一般社団法人富山県いみず市を世界に発信する会
後援 富山県、射水市、県薬業連合会、北日本新聞社など

コロナ禍の中とはいえ、会場には約二百人が参加、柴田巧・参院議員、塩井保彦・広貫堂代表取締役会長の挨拶の後、「置き薬のビジネスモデルは、世界に貢献できる大きな可能性を秘めている」と考える町井さんの講演が始まった。

（以下は、基調講演の要旨）

◆持続可能な援助を

大学時代にいろんな国を旅する中で、インドの孤児院で「人の役に立てる」という感動を味わったのがボランティアに目覚めるきっかけです。製薬会社に就職後、青年海外協力隊員としてアフリカのニジェール共和国で活動した時に、人生を変える出来事がありました。乳幼児を抱えた母親が「この子が高熱で死ぬかもしれない。病院に行きたいから、お金をちょうだい」と言うのです。二百円程度でしたが、いつも渡していると自助努力の心をなくしてしまうので、渡しませんでした。

でもその後、その村へ行くと、子供は亡くなっていました。自分の行動が正しかったのかどうか随分悩みましたが、アフリカではこうした出来事が日常的に起きています。そこで、アフリカの医療問題を解決する持続的な仕組みを作ろうと考えたのです。

◆優れた「置き薬」の仕組み

大学院のMBAのコースで研究を重ね、たどり着いたのが富山発祥の「置き薬」の仕組みでした。富山の広貫堂さんに行き、売薬の歴史や仕組みを教えていただきながら、大学のメンバーたちと一緒に「アフリメディコ」を立ち上げました。

「置き薬」がなぜアフリカにも普及すると確信したのかというと、アフリカの農村部はかつての日本のように貧しく、先に薬を受け取り、利用した分だけの代金を後で支払う「先用後利」の仕組みは、受け入れられやすいのです。また、どの家も大家族で、いつ訪問しても必ず誰かがいることも都合がよいことでした。

◆アフリカでの現状と未来

タンザニアでの置き薬の普及は二〇一六年の一年間で約百世帯、翌年には約二百世帯に広がりました。十年後には十万世帯を目指しています。現地の人からは「子供が熱を出した時、置き薬が目の前に

http://afrimedico.org/ 認定 NPO 法人 AfriMedico ホームページ

「富山県いみず市を発信する会」では、動画の配信を行います。視聴ご希望の方は、下記までご連絡ください。
メール：info@imizu-world.com
または、HP や LINE からもお問い合わせできます。

公式ホームページ ▶

公式 LINE アカウント ▶

今回のイベントにご協力いただいた皆さま

- 医療法人真生会富山病院
- 有限会社 DS フォート
- 日本海リビング 株式会社
- 株式会社開進堂
- 株式会社トチヲ
- 株式会社アイビックス富山支店
- 株式会社うちくる
- 公認会計士・税理士　舘修事務所
- 富山総合ビルセンター株式会社
- 株式会社カエツ
- 株式会社スクルドアンドカンパニー
- 有限会社ティーディーエス
- 株式会社中部メディカルシステムズ
- 株式会社ライフブレイン
- ワタキューセイモア株式会社北陸営業所
- LIVE DESIGN 有限会社

他多数

富山県いみず市を Toyama Imizu
世界に発信する会

あってよかった」「病院に行っても薬がないから、置き薬があると安心です」などの声が聞かれます。「医療教育もしてほしい」という要望も多く、軽い疾患なら病院へ行かず、自ら健康を管理するセルフ・メディケーションの習慣を身につける教育にも力を入れています。

今後の課題として、各家庭の薬箱の在庫状況や家族の健康情報をネット上で把握できるシステムを作り、きめ細かな対応に役立てたいと思っています。置き薬の実績をきちんとデータに残していくことも大切です。人口五千万人のタンザニアも二〇五〇年には一億人を超えると予想され、置き薬のニーズは確実に高まっていきます。

◆置き薬の心を届けたい

ただ、常に考えているのは、私たちは単に薬を売るのではなく、「置き薬のこころ」を大切にしたいということです。貧しく、医療の恩恵を受けられない人たちに薬を届けるというのが富山藩主・前田正甫公の理念であり、そこから「先用後利」の理念が生まれました。利益より人を大切にする富山の売薬の伝統が、信用を築き、全国に販路が広がったと聞いています。その精神を、私たちは健康とともにアフリカへ届けたいと考えています。一人一人が、何か小さな行動を起こすことで、世界はよりよい方向に変わっていけると思っています。今日はどうもありがとうございました。

「OKIGUSURI」を世界共通語に

基調講演に続くパネルディスカッションは、「富山県いみず市を世界に発信する会」の矢郷良明代表の司会で進められた。

アフリカでの「置き薬」の名称について町井恵理さんは、英語で「メディシン・ボックス」とする案もあったが、あえて「OKIGUSURI」と表記していることを紹介。「置き薬」を開拓した先人の思いを尊重したかったという。

真生会富山病院の真鍋恭弘院長は「今後、OKIGUSURIが世界共通語となり、置き薬のこころが世界に広まれば素晴らしいですね」と語った。さらに「先用後利の仕組みには、自分の利益より相手の幸せを考える利他の精神があり、それこそが置き薬のこころではないか」と付け加えると、県医薬品配置協議会の中屋一博顧問も、富山の薬売りが、山形県米沢市で農業の技術指導もしていた事例などを挙げ、「自分より相手の利益になることに努めた先人の努力が、信頼となって配置薬が全国に広まった」と紹介した。

また、町井さんがネットの新技術を活用したり、現地の事業データを蓄積したりして未来を展望した活動を展開していることを評価し、「配置薬の地元、富山としても大いに学んでいきたい」と語った。

富山県立中央病院内科部長の松田耕一郎医師は、欧米の製薬会社の理念や、薬が市場に出るまでに十年以上の臨床試験が必要なことを述べ、「薬の経費を考えると、アフリカでの市場開拓は容易ではない」としながらも、その中を奮闘する町井さんたちの高い志にエールを送った。

明生薬品工業の豊田博保社長も「提供できる薬品があるかもしれません。何らかの支援も考えたい」と語った。最後に町井さんが「アフリカでバージョンアップされた置き薬の仕組みを、やがては逆輸入する形で日本に持ち込めるようにしたい」と展望を語ると、会場から盛んな拍手が送られた。

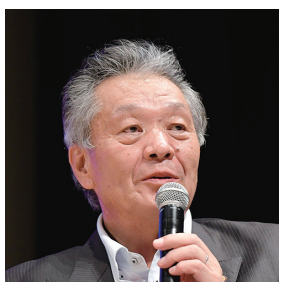
パネルディスカッション・パネリストの皆さま

富山県立中央病院
内科部長
松田耕一郎医師

認定 NPO 法人
アフリメディコ
代表理事
町井恵理氏

富山県いみず市を
世界に発信する会
矢郷良明代表

富山県医薬品
配置協議会
顧問
中屋一博氏



明生薬品工業株式会社
代表取締役社長
豊田博保氏

真生会富山病院
院長
真鍋恭弘医師